

医療機器産業研究所 スナップショット No.25
「医療機器業界に対する就職活動の意識調査 —いかに魅力を伝達するか—」

公益財団法人医療機器センター
医療機器産業研究所

研究員 相宮 直紀

現在日本では少子高齢化に伴い、多くの企業が人材不足の問題を抱えており、企業間の採用競争が業界の枠を超えて激化している。医療機器業界が今後益々発展をするためには、各企業が“自社が求める人材”をより多く確保する必要がある。当財団では、医療機器業界に対する学生(大学生・大学院生)の就職活動の現状を把握するため、アンケートによる意識調査を実施した。本スナップショットでは、その結果の一部を抜粋して紹介する。

【意識調査の概要と結果】

意識調査は、医療機器業界に興味のある学生を選定する事前アンケートと、選定した医療機器業界に興味のある学生に対する業界調査アンケートの2段階で実施した。

事前アンケートでは、就職活動を行うまたは行っている学生を対象に、当財団が提示した業界の中から興味のある業界を全て選択させ、3,753名(うち文系:2,564名、理系:1,189名)から回答を得た。結果を図に示すが、医療機器業界に興味のある学生は293名(うち文系:106名、理系:187名)と他業界に比べて少なく、特に文系の学生が少ない結果となった。

業界調査アンケートでは、①医療機器業界に対するイメージ、②医療機器業界の情報を普段目にするか、③医療機器業界の情報の入手先を調査し、293名のうち199名(うち文系:68名、理系:131名)から回答を得た。

①について、「社会貢献度が高そう」(92.5%)、「将来性がありそう」(86.9%)、「やりがいがありそう」(84.4%)などとポジティブなイメージが多い一方で、「専門知識を要しそう」(86.0%)、「仕事が忙しそう」(81.4%)、「敷居が高そう」(62.3%)などのイメージもあることがわかった。

②について、「目にする」、「まあまあ目にする」という回答と「普段あまり目にしない」、「目にしない」という回答が半分ずつであった。

③について、「就職支援サイト」、「企業サイト」、「説明会(企業、合同)」、「インターンシップ」などが主な情報の入手先であることがわかった。

【考察】

医療機器業界に興味のある学生が少ない結果となった背景要因として、主に三つあると考えられた。

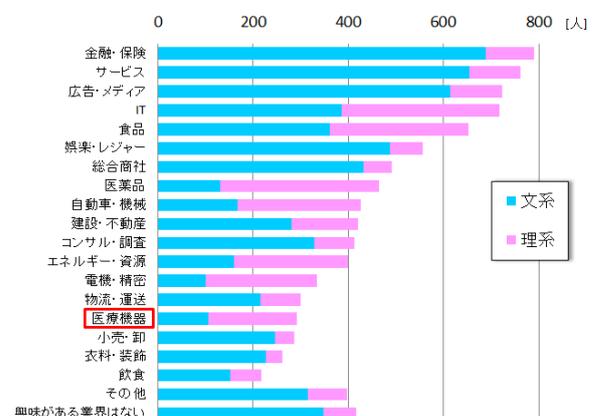
一つ目に、医療機器業界はポジティブなイメージがある一方で、「専門知識を要しそう」、「敷居が高そう」とい

ったイメージもあることから、自分の専門分野ではない、自分には専門知識がないから入れないと考える学生がいることが考えられた。

二つ目に、多くの医療機器は民生品と異なり、主に病院で医療従事者が使用するため、学生が医療機器を目にする機会が少なく、医療機器業界を身近に感じにくいことが考えられた。また、広告も民生品ほど目にするものではなく、多くの学生が医療機器業界の存在そのものを認知出来ていないことが考えられた。

三つ目に、産業界として医療機器業界の強みや魅力を十分に伝達出来ていないことが考えられた。多くの学生は主に就職支援サイトや企業サイトから情報を入手しており、就職支援サイトは様々な業界の情報を広く掲載していることから専門性に欠け、企業サイトは各企業の情報は充実しているものの、多様性に富んだ産業界全体としての情報は乏しいことが主な要因になっていると考えられた。また、学生側が医療機器産業を認知していない場合、医療機器産業がそもそも選択肢とならないため、能動的な情報収集に至らないことも背景となるであろう。

以上の課題に対応するため、当財団では学生向けに医療機器業界の情報を総合的かつ積極的に伝達するためのウェブサイトを開設する予定である。一つのウェブサイトに医療機器業界の情報を集約し、手軽に閲覧出来るようにすることで、学生に対して業界の認知度を向上させると共に、文系理系それぞれの観点から業界の魅力を伝達することを図る。このウェブサイトを通じて多くの学生が医療機器業界を認知し、医療機器業界への進路を希望することで、業界が今後更に発展することを期待する。



図：就職活動をする際に興味のある業界(複数回答)